

4 調査研究業務の概要

平成 22 年度実施課題一覧

①保健関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
感染症の発生及び食品の安全性確保に関する研究	これまで原因不明となっていた食中毒細菌の検査方法の開発	希少カンピロバクターについて、従来の培養法に加え遺伝子検査により、これらの菌を検出するための系を開発する。	20-22年度	P16
	福岡県における感染性胃腸炎原因ウイルスの実態解明に関する研究	感染性胃腸炎の原因ウイルスには、実態が解明されているノロウイルスの他にもロタウイルスや新たに発見されたサポ、アストロ、ボカウイルスなどのウイルスがある。これらのウイルスの感染状況を調査するとともに遺伝子解析を行い実態を解明する。	22-23年度	P18
	新型インフルエンザ症例発生時の検査体制の確立	高病原性鳥インフルエンザのヒト感染例が近隣諸国で発生している現状から、新型インフルエンザとなる可能性が高い高病原性鳥インフルエンザウイルスの検査、監視体制を早急に確立させる。	21-23年度	P18
	サルモネラ等の薬剤耐性の拡大を予防するための基礎的研究	サルモネラのセファロスポリン・セファロマイシン系薬剤耐性獲得は、他の細菌からの伝達性耐性因子により拡大している。耐性獲得サルモネラがどの程度県内の食品（鶏肉等）を汚染しているか実態を調査する。	22-24年度	P16
ダイオキシン類、有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	油症診断基準の一つであるポリ塩化クアテルフェニル(PCQ)の新測定法の開発	油症の診断基準の一つである血液中のポリ塩化クアテルフェニル(PCQ)濃度の測定方法として、全塩素化(現行法)の代わりに脱塩素化を行い、GC/ECDの代わりに高分解能GC/MS(RGC/HRMS)を用いた新PCQ測定法を開発する。	21-23年度	P14
	食品中PCB代謝物の分析法開発に関する研究	ポリ塩化ビフェニル(PCB)代謝物の食品汚染度を調査し実態を解明するとともに食品中のPCB代謝物の化学分析法を確立し、食の安全性確保に資する。	22-24年度	P20
	臭素系ダイオキシン類等新たな有機ハロゲン化合物による食品汚染調査	塩素・臭素化ビフェニル及びその関連物質である臭素化ビフェニル、ヘキサブROMシクロドデカン、四臭素化ビスフェノールAについて、食品の汚染実態を明らかにすることにより、食品の安全・安心を確保する行政施策に資する。	20-22年度	P20
	油症等のダイオキシン類による人体および次世代影響の解明に関する研究	福岡県を中心に発生した油症をはじめとするダイオキシン類のヒトへの健康被害及び次世代への影響を解明し、行政対応のための科学的データ蓄積に資する。	22-24年度	P20

②環境関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による環境汚染の防止とその対策に関する研究	保健環境研究所データベースを利用した異分野連携システムに関する研究	保健及び環境関連の各部署のデータ（調査データ、測定データ、シミュレーションシステム等）及び地理情報システムとの連携をはかり、県内各地域における保健と環境をあわせた総合的な状況把握が可能なシステムを構築する。	21-23年度	P12
	化学物質の分析法開発並びにそのデータベース化に関する研究	化学物質に関しては国や地方自治体が連携して分析法の開発や実態調査に取り組んでいる状況を踏まえ、新たな化学物質を含めた分析方法の開発を行い、更に多成分の一斉分析を可能にするデータベースを構築する。	22-24年度	P14
大気環境の保全に関する研究	微小粒子（金属類及び有機化合物等）による越境大気汚染の影響評価	微小粒子中に含まれる金属は越境大気汚染の指標となり得る。有機化合物には健康影響を示す物質もある。そこで、本研究では北部九州で微小粒子中の金属類及び有機化合物の実態を把握し、越境大気汚染の影響評価を行う。	22-24年度	P22
	高活性炭素繊維を用いた大気浄化技術の実用化、応用研究	道路沿道の他、室内、自動車内、地下駐車場のよう、殆ど風のない場所で、空気の自然対流やガス拡散によりNOx、VOCをACFに捕捉、浄化できる空気浄化システムの設計、実用化を目指す。	20-22年度	P22
水環境の保全に関する研究	藍藻類が生産するマイクロシスチンのモニタリング手法とその評価に関する研究	湖沼の藍藻類（アオコ）が生産するマイクロシスチン（MC）と言われる毒性のあるペプチドのモニタリング手法を確立し、県内のMC汚染の現状把握及び有毒藍藻類の発生状況を明らかにし、水資源の有効利用促進や湖沼の適正で効率的な水質管理に資する。	21-23年度	P24
	溶存態ケイ素を考慮した沿岸生態系管理に関する基礎的研究	有明海のノリの不作・赤潮の発生等の問題解決を目指し、溶存態ケイ素発生・流入モデルを改良した沿岸生態系予測モデルを完成させるとともに、環境・水産サイドから最適な栄養塩管理手法を提案する。	22-24年度	P24
廃棄物の適正処理と有効利用に関する研究	最終処分場からの有機汚濁質による硫化水素生成と適正処理に関する研究	最終処分場における高汚濁負荷を有する浸出水等を対象として、有機物の硫化水素生成能、分解特性及び水処理特性を明らかにし、硫化水素生成予測や有機汚濁質の処理などの対策や最終処分場の適正管理に資する。	22-24年度	P26
自然環境と生物多様性の保全に関する研究	オゾンによる植物被害とその分子的メカニズムに関する研究	オゾンストレスに対し、応答的に発現が増加する遺伝子をスクリーニングし、気象条件等も考慮した被害評価法を確立する。	21-23年度	P27
	特定外来生物ブラジルチドメグサ及びミズヒマワリの防除に関する研究	筑後地域の一部に限定して大繁茂しているブラジルチドメグサ及びミズヒマワリ(特定外来種)の2種は、現状で有効的駆除方法があれば、排除可能と考えられる。そこで、両種を対象に、効果的かつ効率的な防除方法について検討する。	21-23年度	P28
計	17 課題			